

2010 年 9 月 30 日

国際会計基準審議会御中

公開草案「その他の包括利益の項目の表示（IAS 第 1 号の修正案）」に対するコメント

我々は、財務諸表の表示プロジェクトにおける国際会計基準審議会（IASB）の長年にわたる努力に敬意を表するとともに、公開草案「その他の包括利益の項目の表示（IAS 第 1 号の修正案）」（以下、「本公開草案」という。）に対するコメントの機会を歓迎する。

Ⅰ．総論

1. 我々は、IASB が、結論の根拠（BC20 項）において業績の測定値としての純損益を廃止する予定がないことを表明していることを支持し、純損益を純損益及びその他の包括利益計算書の独立の区分として表示するとともに、引き続き 1 株当たり利益の計算の出発点とすることを支持する。純損益は総合的な業績を示すものであり、所有者との取引から生じる変動を除いた一期間の純資産の変動によって測定される包括利益や、包括利益と純損益との差額であるその他の包括利益と組み合わせられることにより、有用な情報が提供できることになると思う。
2. 純損益と包括利益の 2 つの指標を表示する場合、この 2 つの指標を明確に区別する 2 計算書方式には有用性があると思う。しかしながら、本公開草案の提案は、結論の根拠において純損益の表示を存続する意図が明示されているとともに、基準における計算書の呼称及び設例においても純損益を十分に強調しており、純損益とその他の包括利益の項目との間の明確な区分を維持している。このように純損益を十分に強調することを前提とするならば、我々は 1 計算書方式のみとすることを全面的に反対するわけではない。
3. また、本公開草案は、純損益とその他の包括利益を 1 つの連続する計算書で表示する提案であり、その他の包括利益に含まれる項目やその他の包括利益と純損益との調整であるリサイクリングについての論点を取り扱わないことは理解する。しかしながら、純損益は企業の業績を示す重要な指標であり、その他の包括利益がリサイクリングされないことにより純損益の役割を大幅に変えることは回避すべきであると思う。このため、その他の包括利益の取扱いについては、個別の会計基準において会計処理で決めるのではなく、「財務諸表の表示」プロジェクト又は別個のプロジェクトにおいて包括的な観

点から検討すべきである。我々は、代替的見解¹に記載されているように、何がその他の包括利益に表示されるべきか、また、その他の包括利益に表示された項目をどの時点で純損益に振り替えるべきかを決定するための徹底的な概念的議論を行うべきであると考えている。

II. 各論（各質問に対する回答）

質問 1:純損益及びその他の包括利益計算書（名称）

当審議会は、包括利益計算書の表題を、IFRS 及び他の公表文書で言及する際には、「純損益及びその他の包括利益計算書」に変更することを提案している。これに同意するか。同意する理由又は同意しない理由は何か。どのような代替案を提案するか。

4. 同意する。「純損益及びその他の包括利益計算書」という名称は、当該計算書が、「純損益の部」と「その他の包括利益の部」の2区分から構成されていることを、包括利益計算書という名称と比べて強調すると考える。

質問 2:純損益及びその他の包括利益計算書（1 計算書）

本提案は、純損益及びその他の包括利益計算書を2つの部（純損益及びその他の包括利益の項目）で表示することを企業に求めることとなる。当審議会は、これにより表示の首尾一貫性が高まり、財務諸表の比較可能性が高まると考えている。これに同意するか。同意する理由又は同意しない理由は何か。どのような代替案を提案するか。

5. 本公開草案の提案は、結論の根拠において純損益の表示を存続する意図が明示されているとともに、基準における計算書の呼称及び設例においても純損益を十分に強調しており、純損益とその他の包括利益の項目との間の明確な区分を維持している。このように純損益を十分に強調することを前提とするならば、表示の首尾一貫性や財務諸表の比較可能性の観点から、我々は1 計算書方式のみとすることを全面的に反対するわけではない。

質問 3:その他の包括利益の項目の表示（リサイクリング・ノンリサイクリングで区分）

本公開草案は、その他の包括利益（OCI）の項目のうち、その後の期間で認識の中止の際に純損益に振り替えられる（リサイクルされる）ものを、純損益に振り替えられない OCI の項目と区別して表示することを企業に求めることを提案している。このアプローチを支持するか。支持する理由又は支持しない理由は何か。どのような代替案を提案

¹ 本公開草案におけるヤン・エングストローム氏の代替的見解 AV3 項。

するか、またその理由は何か。

質問 4: その他の包括利益の項目の表示（法人所得税）

本公開草案は、OCI に表示される項目に係る法人所得税を、その後において純損益に振り替えられる可能性のある項目と、その後において純損益に振り替えられない項目とに配分することを企業に求めることも提案している（OCI の項目を税引前で表示する場合）。この提案を支持するか。支持する理由又は支持しない理由は何か。どのような代替案を提案するか、またその理由は何か。

6. 純損益は企業の業績を示す重要な指標であり、その他の包括利益がリサイクリングされないことにより純損益の役割を大幅に変えることは回避すべきであると考え。このため、まずは、その他の包括利益の取扱いについては、個別の会計基準において会計処理で決めるのではなく、「財務諸表の表示」プロジェクト又は別個のプロジェクトにおいて包括的な観点から検討すべきである。我々は、代替的見解に記載されているように、何がその他の包括利益に表示されるべきか、また、その他の包括利益に表示された項目をどの時点で純損益に振り替えるべきかを決定するための徹底的な概念的議論を行うべきであると考え。したがって、リサイクリングしない OCI の項目の存在を前提とした質問 3、質問 4 については回答を行わないこととした。

* * * * *

我々のコメントが、当プロジェクトにおける IASB の今後の審議に貢献することを期待する。

新 井 武 広

企業会計基準委員会 副委員長

財務諸表表示専門委員会 専門委員長